

1. 編組竹製品技術資料集発刊事業 「応用技術編」

菅原 弘美・豊田 修身・阿部 優
吉岡 誠司・佐藤幸志郎

1. 目的

当所に於て蓄積してきた竹工芸全般に渡る研究成果を分類、整理し、その技術・技法を的確に残すとともに、広く地場竹産業界に伝え、デザイン開発や新商品開発の参考となり、さらに産地の基盤づくりに役立てる事を目的として、平成2年度に発刊した竹編組技術資料集「基礎技術編」に引き続き「応用技術編」を発刊する事とした。

2. 内容

本事業を進めるにあたり、資料集の掲載内容並びに構成について企画をした。

2.1 調査・計画

応用加工技術の選定については、地場での生産品目とその加工技術の調査を実施するとともに、日本工芸技術協会の竹編組デザイン資料集を参考にして、応用技術として実践的に活用できる各種加工技術を選定し、実施計画書を作成した。地場竹製品製造業界等から選任した編集委員との編集会議を開催して、計画書の内容について検討を進めた。

協議の結果、「応用技術編」として平面から立体への加工技術38種、縁前処理技術4種、縁巻き加工技術17種、籐巻き加工技術27種、手・柄の加工技術7種の他、関連加工技術として9項目について写真とイラスト並びに解説を加え掲載し、充実した使い易い資料集を作成することを決定した。

2.2 平面から立体への加工技術

基本編組の中から選んだ編組について、平面から立体に移る工程を5～9工程の範囲内でまとめ、1工程毎を写真で掲載するとともに、それぞれの工程について加工方法及び留意点等の解説を加えた。

また、基本編組の中には同じ編組で数種類の形（三角、四角、六角）に加工できる編組もあり、それも含めて掲載した。

2.3 縁巻き加工技術

縁巻き加工技術については、わかり易いようにイラストで2～3工程にまとめ、それぞれの工程について注意点等の解説を加えた。

なお、縁巻きを行う前段の処理加工技術についても基本的な処理方法を選んで掲載した。

2.4 籐巻き加工技術

縁巻き加工技術と同様に2～3工程をイラストでまとめ、それぞれの工程について解説を加えた。

2.5 手・柄の加工技術

手の加工技術については、一般的に利用されている技法と特殊な製品に使われている技法とに分け、前者を2～3工程でイラストと解説でまとめ、後者を参考として写真と解説で掲載した。

2.6 関連加工技術

関連加工技術については、当所の研究成果の中から竹の加工技術以外に地場産業に関連ある竹材の諸性質、構造、竹材の加工、油抜

き、染色、塗装、竹材の保存等について、写真と図・表でまとめ、それぞれについて解説を加え掲載した。

また、昭和44年度から平成3年度までに当所が研究開発した試作品を掲載した。

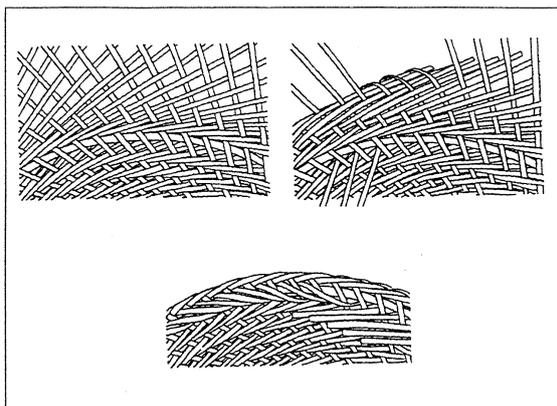


図1. 縁巻き加工工程例

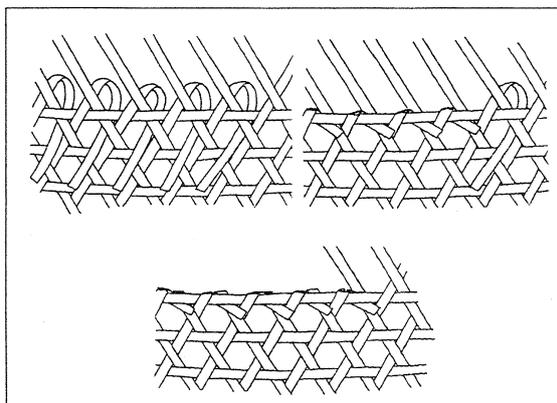


図2. 縁前処理工程例

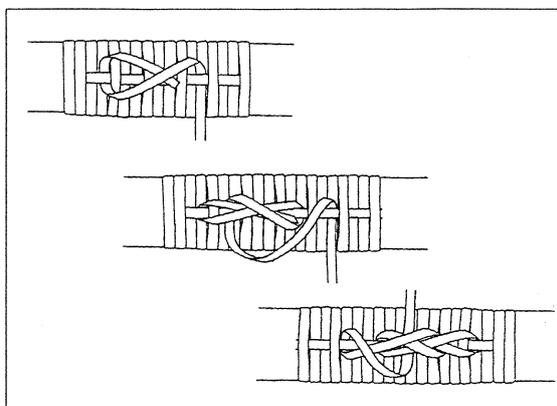


図3. 籐巻き加工工程例

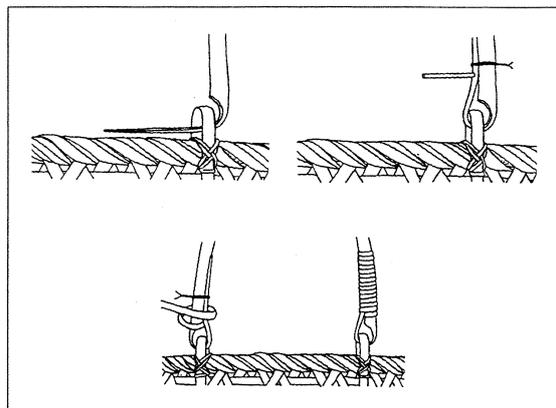


図4. 手・柄の加工工程例

3. 効果

現在、竹産業に従事している人は別府地区に集中しているが、県下でも広く竹工芸に係わっており、地域に於て衰退しつつある技術の復興と保存をめざしている。

表1. 効果対象表

項目	対象	用途
デザイン指導	竹産業界・デザイン関係団体	デザイン活動のための竹ガイドブック。新商品開発及び異分野への竹材の導入。
後継者育成	中堅技術者養成	研修資料・自習書
技術教育	高等技術専門学校・社会福祉センター	教科書・自習書
啓蒙	発明教室・カルチャー・スクール	グループや個人が学習を行う場合の教科書・自習書。
技術継承	地場竹産業界	竹工技術の向上と新製品の開発、生産技術の確認と向上。新技術の導入、従業員等の指導資料。
生涯教育	生きがい対策(高年大学)学校教育	グループや個人が学習を行う場合の学習書。
一村一工芸	地域興し	各地域における竹関連グループの村興しのための技術指導・自習書。
技術指導	別府竹協・別府クラフト外	団体指導

また、全国でも唯一の竹工芸の訓練機関である大分県立別府高等技術専門校では、年間30名が竹工芸全般についての指導を受け、竹工芸技術者を目指している。その他独学で勉強している人も多数いる状況の中、この資料集の普及効果を図るために、地場竹産業界関係者を主な対象とするほか、表1. に掲げている団体または公共機関等の研究資料や自習書としても活用できる。

4. 結果および考察

昨年度発刊した技術資料集「基礎技術編」は関係者から好評を博し、当所の目的である技術・技法の伝承やデザイン開発の参考等地場竹産業界からの要望に応えることができた。

本年度は、昨年に引き続き「応用技術編」として、基本的な加工技術から応用的加工技術の展開法の資料集で、内容的にも竹加工技術全般について幅広く掲載しており、より広範囲の商品展開が可能になるとともに、品種拡大と高付加価値製品の開発のための研究資料集として多くの生産者から利用され、地場竹産業界の活性化が期待できる。